



### 薬(すくも)

阿波では昔から藍が栽培され、その歴史は古く平安時代にさかのぼると言われています。現在でも藍の産地として有名です。

藍はタデ科の一年草で3月上旬頃、種まきをし、7月中旬には一番刈り、8月中旬に二番刈りを行います。葉と茎を選別後、9月上旬頃、天日干しをした藍の葉を使用して藍染めの染料のもとになる「薬(すくも)」を作ります。

約3トンの乾燥した藍の葉を土間の上に敷き詰め、水をかけてよく混ぜます。その後、5日ごとに水を打ち、20数回の切り返しを行います。上からむしろをかけて約120日を経過すると、薬が

出来上がります。土間に住みついている乳酸菌の働きによって発酵されるのです。



木の灰から作るうわずみ液。

### 藍建(あいだて)

薬は葉というよりは、まるで土のような状態です。においも特ではありません。この薬からあの藍色が生まれるとは想像がつかないほどです。この薬から染料を作ること

## 特集 発酵食品をたずねて 「藍染め」

今月は発酵食品ではありませんが、発酵食品と同じく微生物の働きによって美しい色を作り出す「藍染め」をご紹介します。徳島県徳島市にある古庄染工場を訪問しました。

甕(かめ)の中に薬を入れ、クヌギやナラ、桜などの木の灰を熱湯に入れて作るうわずみ液で溶かし、ふすま、石灰、酒などを入れ、よく混ぜ合わせます。表面に藍の色が浮いてくるまで昼夜問わず、一定の時間ごとに混ぜ合わせます。微生物たちの働きを見守りつつ、布が染まる状態になるまで約10日間。ゆっくりその時期を待ちます。水面にコバルト色の泡(藍の花)が立つと、ようやく染められる状態になった合図です。

薬にうわずみ液を入れて混ぜる。まだ藍色ではなく、泥水のように。

土のような薬(すくも)。





現代の名工 古庄先生。

### 天然藍染め

現在も、天然藍と呼ばれるこの藍建を行っているところは希少で、古庄染工場はその数少ない中のひとつです。6代目となる古庄紀治（としはる）さんが先祖代々の手法を引き継いでいます。

制作中の浴衣の反物が甕の中で染められていました。何度も引き上げられ、水で洗い流しては、また甕に入れ、引き上げる。とて

第に緑から薄い青色へ変化します。まるで手品でも見ているかのようで、とても不思議です。

数日前から染めているハンカチと比較すると、青色の濃さの違いが目瞭然です。何度も染料に浸しては引き上げ、浸しては引き上げ、それを繰り返すことで、あの藍色に染まっていくのです。体験



白いハンカチを糸できつく縛る。

も地道な作業です。引き上げた際に空気中で酸化されることで、色が定着していきます。水の中ではまるで魚が泳ぐように美しい藍色の反物がきらめいています。藍染めの美しさに見とれてしまいました。



黄色っぽい泥の色が、空気に触れさせて水で洗うと、一瞬にして青くなる。

はここまででしたが、1週間後に完成したハンカチが届きました。どんな風に染まっているかドキドキです。

生地全体は深い紺色に染め上がり、絞った部分は絞りの強度の違いで白から藍色のグラデーションがかかっています。同じ柄は二つとないこの世にたった二つのハンカチ



甕に浸し染める。

### 藍染め体験

藍染めのハンカチ作りが体験できるということで、私たちも早速体験させていただきました。真っ白な布に自分が染めたい絵柄になるように、布をたたんだり、ひねったり。染めたくない部分は糸でぐるぐる巻きにします。お手本を真似したり、少しアレンジしてみたり。なんだか制作意欲がわいてきます。

いよいよ、染めの体験です。白いハンカチを甕の中にあるかごの中へ。両手でもみ洗うように染料になじませます。染料から引き上げてみると、真っ白だったハンカチは黄色味がかって見えます。しかし、その色も空気にもふれると、次



一度染めたハンカチを水で洗う。左半分が水で洗った部分。右半分と色の違いが分かる。この染めと洗いを何度も繰り返す。

## 古庄染工場のご紹介



戦国時代から明治時代にかけて栄え、全国にその名を馳せた阿波藍。その技術と伝統を守り、江戸時代末期の創業以来、天然藍を使った昔ながらの手法で藍染めを行っています。無形文化財技術保持者である古庄紀治氏の工場で、阿波藍染めの製造工程の見学ができるほか、予約すれば藍染め体験が楽しめます。



### ■所在地

〒770-0027 徳島県徳島市佐古七番町9-12

### ■連絡先

TEL 088-622-3028

### ■営業時間

9:00～12:00、13:00～15:00

### ■休業日

日・祝日、12/28～1/5、8/12～8/15

### ■交通のご案内

JR徳島駅→車で15分

JR徳島線蔵本駅から徒歩10分

### ■料金

藍染め体験(予約制) 1,000円～



完成した編集長の力作!

天然染料である藍は化学染料と違って、光の反射が柔らかいため、目に優しく、写真に撮ると藍色が一層鮮やかに写るそうです。染め上がった時の色よりも年月が経ち、洗いこんでいくとさらに色が鮮やかになっていきます。藍染めの人気の

理由がよくわかる気がします。みなさんも是非、藍染め体験してみませんか。

文・・・加藤真紀子(ヘルスケア商品開発センター)  
写真・・・佐竹香代(ヘルスケア営業部・本誌編集長)